

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	16-032	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Does the flushing response modify the relationship between alcohol intake and hypertension in the Japanese population? NIPPON DATA2010. フラッシング反応の有無は日本人における飲酒と高血圧の関係に影響するか		
<b>執筆者</b>		
Kogure M, Tsuchiya N, Hozawa A, Nakaya N, Nakamura T, Miyamatsu N, Tanaka H, Wakabayashi I, Higashiyama A, Okuda N, Takashima N, Fujiyoshi A, Kadota A, Ohkubo T, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K.		
<b>掲載誌</b>		
Hypertens Res. 2016 Sep;39(9):670-9. doi: 10.1038/hr.2016.46.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、フラッシング反応、NIPPON DATA2010		27169399
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 日本人の代表的集団（NIPPON DATA2010）において、フラッシング反応の有無により飲酒量と高血圧の関連が異なるかを検討する。</p> <p><b>方法：</b> 2010年の国民健康・栄養調査において、NIPPON DATA2010 ベースライン調査に応じた2,402人（男性1,139人、女性1,263人）を対象とした（禁酒者と飲酒歴の無い人は除外）。フラッシング反応と飲酒量は自己申告であった。性別・フラッシング反応有無別に、飲酒量と高血圧の関連について、多重ロジスティック回帰分析を用いて横断的に検討した。</p> <p><b>結果：</b> フラッシング反応は男女とも約半数に認められた。男性は659人（57.9%）、女性は463人（36.7%）が高血圧であった。男性では、フラッシング反応がある群でも無い群でも、飲酒量と高血圧に正の関連があった（両群とも線形傾向の <math>p &lt; 0.05</math>）。フラッシング反応による交互作用は認められなかった（交互作用の <math>p = 0.360</math>）。女性では、フラッシング反応の有無いずれの群でも、飲酒量と高血圧に有意な関連はみられなかった。</p> <p><b>結論：</b> 日本人男性においては、フラッシング反応の有無に関わらず、飲酒量と高血圧に正の関連が認められた。</p>		